

令和３年度第４回理事会議事概要

日 時 : 令和３年７月９日（金） １４：５７～１６：５８

場 所 : 森林総合研究所特別会議室（つくば市）
（中西総括審議役、石原総括審議役、森谷審議役はＴＶ会議で参加）

出席者	理事長	浅野 透
	理事（企画・総務・森林保険担当）	矢野 彰宏
	理事（研究担当）	坪山 良夫
	理事（育種事業・森林バイオ担当）	今泉 裕治
	理事（森林業務担当）	志知 雄一
	理事（法令遵守担当）	井田 裕之
	監事	鈴木 直子
	監事	高橋 正通
	総括審議役	寺川 仁
	総括審議役	中西 誠
	総括審議役	石原 聡
	審議役	森谷 克彦
	企画部長	小林 功
	総務部長	青柳 浩

1. 開会

(寺川総括審議役)

令和3年度第4回理事会を開催いたします。

本日は審議事項が2件、報告事項が5件です。なお、審議、報告事項終了後に林野庁森林・林業基本計画検討室の石井首席森林計画官より新たな森林・林業基本計画についての講演をいただき、意見交換の場を設けさせていただきます。

それでは順次説明をお願いいたします。

2. 議事

I-1 会計監査人候補者の選定について（非公表）

※矢野理事から本件の説明が行われ、審議のうえ理事会で承認された。

I-2 公的研究費等不正防止計画の見直し等について（一部非公表）

(寺川総括審議役)

「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」の改正が令和3年2月から4月に行われたことに伴い、森林機構においても実施要領を改正することになります。

その改正内容の1つ、不正防止計画について今回の理事会で審議していただければと思います。

(今泉理事)

日々の業務の中でかなりの件数の調達関係書類が回ってきますが、100%不正防止できるのか、と言われると自信がありません。

不正とか間違いがあると自動的に感知できるような電子決裁の導入が理想ですが、それが早急に難しいのであれば、1人1人がどこを見るべきなのか、業務の方法論を整理するべきでは、と感じています。

(寺川総括審議役)

チェックの分担、どこを見るべきか、何重のチェックになっているか等、この機会に見直す必要はあると感じています

(今泉理事)

過去の不正事例等を参照し、どこを見ると不正が浮かび上がるのか等、項目を抜粋したものとチェックしやすいと思います。

(矢野理事)

過去の調達に関わる不正経理問題のポイントは、研究者が自ら業者と接触し、発注、検収をしていたことでした。現在は、研究者が直接これらの業務を行うことができないような調達のルールが確立されています。

その基本部分を変えないという前提で、現状の事務手続きを改めて見直したときに、

間違い等をチェックするという点で言うと、少し過剰になっている部分があると思われます。ここ数年は不適正な事案は発生していないことも踏まえて、今回の不正防止計画の変更と併せて効率的なチェック体制に見直すという考え方であることを理解していただけだと思います。

(鈴木監事)

内部監査について、現在は監事監査を年1回行っており、会計監査人も年2回ヒアリングを行っていますが「強化」という点で変わる可能性があるということでしょうか。

(寺川総括審議役)

今までも十分に行われているものもあります。

監査室と打ち合わせを行い、現状で十分かどうか検討していきたいと思います。

(矢野理事)

実施要領第25条に内部監査についての規定があり、「内部監査の実施にあたっては、監事及び会計監査法人と連携する」と書かれています。今回のガイドラインの改正では、監事の役割を明確化するとされており、今回この規定の改正はしていませんが、これまで以上に監事との連携を意識していくということかと思います。また、ガイドラインで内部監査に公認会計士等の参画を求めるとされたことを受けて、今年度以降の会計監査法人の公募に当たっての提案事項の一つに内部監査への支援を入れており、こちらとの連携も強化することとしています。

(寺川総括審議役)

ほかに意見等ないようなので、この方向で進めさせていただきます。理事長には今後、一層のご指導をいただければと思います。

Ⅱ－1 令和2事業年度財務諸表の承認について

(矢野理事)

第3回理事会において承認された「令和2事業年度財務諸表」について、「独立監査人の監査報告書」と「監事の監査報告書」を添えて6月15日付けで農林水産大臣に提出し、6月22日付けで農林水産大臣から承認の通知が来ておりますので報告いたします。

Ⅱ－2 特定母樹等普及促進会議の開催について

(今泉理事)

毎年開催している会議ですが、今年度も育種基本区の地区ごとに開催いたします。今年はコロナ禍の中ということもあり、ウェブ会議での開催を検討しています。

議事の内容については「間伐等特措法」に基づく特定母樹の原種の増殖、開発、配布のスケジュールについて各育種場、育種センターの進捗状況の報告、県の要望等について情報交換をしながら、効率的かつ効果的に進めていくための意見交換の場として考

えております。

(矢野理事)

この会議は機構主催なのですか。

また「間伐等特措法」の改正を受けて、内容が変わる部分はあるのですか。

(今泉理事)

機構主催になります。林野庁からは来賓として来ていただく予定です。

今回変わった内容は、育種、種苗に直接関わる部分ではないので、特段議題に載せることは考えておりません。

Ⅱ－３ 森林整備センターの全国安全週間の取組について

(志知理事)

７月１日～７日まで、森林整備センター役職員の労働安全に対する意識の向上等を図るとともに、水源林造成事業者に係る事業者の労働安全指導を図るための取組を行いました。

役職員の労働安全意識の向上を図る取組として、７月５日に林野庁から講話を招き、安全講話を行いました。そのほか、意見交換会や保護具・救急薬品等の点検を実施しました。

水源林造成事業に係る事業者に対する労働安全指導の取組について、令和２年度水源林造成事業地では３４件の労働災害が発生しました。前年度より増えている状況であり、労働災害の発生状況を踏まえまして、造林者に対しての安全指導、具体的には整備センターの職員による安全パトロール、労働安全の指導を行っています。令和３年度の取組における重点指導事項として、資料記載の（１）～（５）の取組を実施しております。

(矢野理事)

整備センターだけではないのですが、特に事務系で採用した女性職員など、山歩きに慣れていない方が検査に出向いた際に災害が発生したという事例があります。そういう方を念頭に置いて安全に対する取り組みをしていただければと思います。

(志知理事)

最近、採用を増やしたので特に若手職員が多いです。指導を徹底していきたいと思えます。

(浅野理事長)

労働災害が増え気味なので、労働安全教育の徹底をよろしくお願いします。

Ⅱ－４ 令和３年度保険料収入及び保険金支払の実績（暫定値）について（非公表）

※石原総括審議役から本件の説明が行われた。

Ⅱ－５ 「令和３年７月１日からの大雨による災害にかかる災害救助法の適用」にかかる森林保険事務の対応について

（石原総括審議役）

「令和３年７月１日からの大雨による災害にかかる災害救助法の適用」にかかる森林保険事務の対応について、概要及び通知内容は資料のとおりですが、対象地域について、静岡県熱海市のほか、昨日、第２報として追加されております。具体的には鳥取県鳥取市、島根県松江市、出雲市の３県４市が指定されましたので、それぞれについて保険の猶予の手続きをしております。この件についてはホームページにも掲載しております。

（寺川総括審議役）

Ⅲ．その他につきまして、令和３年度６月に森林総合研究所が広報した研究成果を付けておりますので、情報を提供させていただきます。

※議題Ⅳから特別講演として林野庁森林・林業基本計画検討室首席森林計画官石井洋氏、課長補佐松井健太郎氏を招き、新たな森林・林業基本計画についての講演をいただき、その後、意見交換を行った。（石井首席森林計画官、松井課長補佐はＴＶ会議で参加）

Ⅳ．特別講演

新たな森林・林業基本計画について

（今泉理事）

基本計画策定、公表後にさまざまな反応、意見があったと思いますが、ネガティブなものも含めて紹介できるものがあれば教えていただけないでしょうか。

（石井首席計画官）

持続性は非常に重要なので、その点を軸足に置き成長させるという方向性は非常に良いという意見をいただきました。一方で、主伐を進めることに軸足を置いているのでは、という捉え方をしている方もいるようです。誤解を与えている点については丁寧に説明していかなければと感じています。

そのほか、中小地場の強化について明確に書いた点は、「やっとう書いてくれたか」との感想をいただきました。

（志知理事）

ウッドショックによる木材の値上がりについて、計画策定時は想定していなかったと思いますが、その影響について教えていただけないでしょうか。

（石井首席計画官）

短期的には需給のバランスが悪くなっているので、業界には買い占めをしないよう適切に情報を提供していく必要があります。

中長期的にはウッドショックにより外材のリスクが明らかになったと感じており、だ

からこそ、木材の需要は国産材に切り替えていくという政策を進めていかなければならない、と感じております。

（浅野理事長）

森林サービス産業への期待はどの程度でしょうか。

（石井首席計画官）

今回「山村振興」という言葉を「新たな山村価値の創造」と項立てを変え、従来に増して強めに書いております。林業木材産業だけではない森林の使い方は重要で、それが人を呼び込むことになるという認識は庁内にもかなりあるので、期待度は高いと感じています。

（浅野理事長）

国として、どのように施策を進めていくのでしょうか？

（石井首席計画官）

現在、モデル事業への支援などを行っています。個人的な考えになりますが、サービス産業に行政が口を出すと、つまらないものになってしまうと感じています。民間中心で楽しいことを進めていき、産業として自立していくのが正しい方向なのかな、と思っています。

（坪山理事）

「国際競争力」という言葉と「持続性」という言葉がありますが、最近、林業に限らず、さまざまな産業で「持続性」という方法で生産活動が行われているか、というのが大きな視点になっていると感じています。

その中で、例えば林業生産物について、何か、議論になった点等がありましたら教えてください。

（石井首席計画官）

木材生産を進めるにあたり「持続性」が大事である、という考えは共通認識としてありました。

森林・林業基本計画本文25ページ（1）望ましい林業構造の確率 ア目指すべき姿

（ア）で「長期にわたる持続的な経営の実現」で、持続的な林業経営の形について議論がなされたところです。

また、33ページ（5）木質バイオマスの利用について、森林資源の保続が担保された形での木質バイオマスの利用を図っていくという点についても持続性という観点から議論を行いました。

（矢野理事）

育成複層林について、数値目標を下げられましたが、自然体ということで落ち着いた

のか、今後、伸びていく可能性についての議論はあったのでしょうか。

また「面的複層林」という言葉を使っていますが、この言葉はオーソライズされたのでしょうか。

(石井首席計画官)

育成複層林については、強く書けるものがなかったことから苦慮してきたところですが、森林環境税も創設され、市町村による森林管理、複層林化が進むものと期待しています。

かつて「モザイク」と言っていたものを国有林では「面的複層林」と称しており、各局もモデル的に設定しようという話があったことから、オーソライズさせていただきました。

(森谷審議役)

利益を相互に分配することがこれからの森林林業木材産業には必要である、というのが現状への課題認識の表れだと思うのですが「商物分離」という言葉はどちらかというところ棘を含んだものの言い方だと感じます。

基本計画にはっきり書かないまでも川上と川下で考え方が違う、相反する立場にあると思うのですが、この点について、どんな議論があったのか教えていただけないでしょうか。

(石井首席計画官)

林政審議会の中ではとくに激しい議論はありませんでした。

ただし、庁内の検討段階では、山元立木価格の低下というが、製材は不当な利益を取っている訳では無く、乾燥材への対応などが達成できなければ国際材の比率は高まっていない等、さまざまな意見をいただきました。

また、川中に再造林を押し込めるような議論は正しいのか、との意見もありました。そのような議論があった中、認識共有が図られ、新計画の表現ぶりへと収斂したところです。

(寺川総括審議役)

林政審で揉めた部分や、苦労したところがあれば教えてください。

また、森林研究・整備機構に求めるものについても教えてください。

(石井首席計画官)

審議会では揉めた点はありませんでした。滞りなく進んだと感じています。

森林研究・整備機構に求めることについて、個人的な意見になりますが、情勢に大きな変化があり、造林についてはエリートツリー等で成果が出てきており、木材製品については技術革新のスピードが非常に早くなっています。そういう部分を技術的な側面から、新しい林業をするのであれば従来の施業体制ではない部分について、研究という面からサポートしていただければありがたいと思います。

水源林造成事業について、再生林をしっかりと進めていく中で需要がありますし、地域の森林整備を進める上で重要だと思いますので、着実に役割を果たしていただければと思います。

森林保険については、セーフティーネットであり、これだけ自然災害が多くなってくるとカバー率も重要であると認識しています。

(寺川総括審議役)

ほかに質問がないようでしたら、これで令和3年度第4回理事会を終了いたします。

今回は8月6日(金)、開催場所については林木育種センターを予定しておりますが、ご承知のとおり緊急事態宣言等が出ている状況なので、それを踏まえた上で、林木育種センターと相談しながら開催場所について決めたいと思います。

3. 閉会